

千倉協事務局からのお知らせ

(291)

令和6年11月29日

千葉県倉庫協会事務局

TEL: 043-307-1581 FAX: 043-307-1582 E-Mail: chibakyo@s8.dion.ne.jp

《今月号の記事》

1. 倉庫業務フォローアップ研修を開催しました
2. 倉庫事業者台帳ニューアル伴う勉強会を開催しました
3. 倉庫管理主任者フォローアップ研修を開催しました
4. 倉庫管理主任者講習会を開催しました
5. 東葛地区会議の開催について
6. 令和6年度年末年始無災害運動について
7. 新年賀詞交歓会の開催について
8. 今後の行事予定
9. 自主監査のお願い
10. 令和6年秋季全国火災予防運動
11. 令和6年度第1回品目別部会各部会発表内容について

- ☆ 研修・セミナーの案内等はeメール・電話等により請求いただければ、再送いたします。
- ☆ このお知らせは各会員の連絡担当者の方に配布しております。皆様にご覧になれるようご配慮をお願いいたします。
- ☆ 異動等で連絡担当者が変更になる場合及びメールアドレスが変更になる場合には、ご連絡をお願いいたします。
- ☆ 関倉連5協会とは、茨城、群馬、栃木、山梨と千葉県倉庫協会です。
- 6協会とは東京倉庫協会を加え、7協会とは神奈川倉庫協会を加えます。

1. 倉庫業務フォローアップ研修の開催

倉庫業務フォローアップ研修は、関東倉庫連合会4協会共同開催について、9月29日、皆様にご案内しました。

日 時	11月6日(水) 13時~17時
場 所	倉庫会館 3階会議室 東京都江東区永代 1-13-3
参加者	25名
研修内容	倉庫業務基礎研修修了者を対象とし、実務上の留意点を中心としたフォローアップ研修で、前半に倉庫における日常業務の中で留意すべきことを受託・入庫・保管・出庫の業務ごとに説明、後半に事故事例とその防止策を学んでいただく研修です。 千葉からの参加者4名

2. 会員事業所台帳リニューアルに伴う勉強会

会員事業者台帳リニューアルに伴う勉強会は千葉県倉庫協会主催開催において9月11日に皆様にご案内しました。

日 時	11月18日(月) 15時30分～17時
場 所	ホテルグリーンタワー幕張
参加者	40名
研修内容	日本倉庫協会より東部長を講師として迎え、会員事業者台帳リニューアルに伴う、導入の目的、基礎的なシステムのポイント等を講習を受けました。また倉庫業界の最近の動向、協会の活動状況などを説明を受け、有意義な勉強会となりました。

3. 倉庫管理主任者フォローアップ研修の開催

倉庫管理主任者フォローアップ研修は、関東倉庫連合会4協会共同開催について、9月22日、皆様にご案内しました。

日 時	11月27日(水) 13時～17時
場 所	倉庫会館 3階会議室 東京都江東区永代1-13-3
参加者	25名
研修内容	この研修は、日々倉庫業務に携わっている倉庫管理主任者の実務能力のレベルアップを図り、事故防止の徹底による倉庫管理品質の向上を期すことを目的とした研修です。

千葉からの参加者0名

4. 倉庫管理主任者講習会の開催

倉庫管理主任者講習会は、関東倉庫協会連合会の南関東ブロック5協会共同開催について、7月4日、皆様にご案内しました。

日 時	令和6年11月21日(木)	12時00分～17時00分
場 所	全日通霞が関ビル 8階	東京都千代田区霞が関3-3-3
受講費用	1名につき	8,000円 (資料代・会場費含む)
受講者	20名	

5. 東葛地区会議の開催

日 時	11月21日(木) 14:10～16:30
場 所	戸定邸
参加社	7社 16名
議 題	①会員各社近況報告②東葛地区会計報告及び監査結果③戸定邸・庭園見学

他地区協会も合わせて可能な限り開催をお願い致します。

6. 令和6年度年末年始無災害運動について

12月1日から1月15日まで第53回年末年始無災害運動が実施されます。
今年のスローガンは【今年もやります！ 基本動作の徹底 年末年始も無災害】

7. 令和7年賀詞交歓会の開催について

千葉県倉庫協会では令和7年1月22日にホテルグリーンタワー幕張にて16時より千葉食糧保管協会と共催にて賀詞交歓会を開催いたします。皆様のご参加お待ちしております。
お申込みの締め切りは12月3日となります。

8. 今後の行動予定

12月 4日（水）	千葉食糧保管協会第2回理事会開催	14時30～
	第3回総務委員会開催	15時20分～
	第220回理事会開催	16時30分～
12月18・19日（水）	倉庫業務改善管理者研修	
令和7年		
1月21日（木）	プロジェクトマネジメント研修	
1月22日（水）	千葉県倉庫協会・千葉食糧保管協会合同賀詞交歓会	
2月19日（水）	視察研修	
2月26日（水）	安全講習会	

9. 倉庫業の自主監査のお願い：11月・12月は自主監査月間です

10月31日付け倉庫管理指導委員長 長尾浩行委員長からの文書により、11月から12月の2カ月間を自主監査の実施期間とし、会員の皆様方に監査計画と監査票等を送付しております。
今年も倉庫管理主任者は、監査票により自主監査を行い、「自主監査結果の概要報告書」に取りまとめていただき、令和7年1月末日までに、協会事務局まで報告をお願いいたします。

この制度は、平成14年に倉庫業法の事業許可制が登録制に規制緩和されたことに伴い、規制緩和の代償として、自己責任での事故防止を目的として、日倉協が音頭を取り、国土交通省の指導を受けながら実施することとしたものです。

倉庫（業）の不具合は、改めて点検して見ないと分からないものもありますので、この機会に自主点検を行い、不具合が発見された場合には、早急に改善するなど事故防止に努めるようお願いいたします。

結果概要報告書を提出いただいた会員の方には、報告書の（2）に記載された営業所数分について、「倉庫監査実施済証」（日本倉庫協会発行）を送付いたします。

～結果概要報告書を令和7年1月末日までに、事務局に報告下さい～

10. 令和6年秋季全国火災予防運動

実施期間令和6年11月9日（土）～11月15日（金）までの7日間で実施されました。

防火標語「守りたい 未来があるから 火の用心」

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図り、災害の発生を防止し、高齢者を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的としています。

1 1. 令和5年度第1回品目別部会 各部会発表内容について

A. 【穀肥・食料品部会 報告】

本日の穀肥・食料品部会は、12社13名が参加されました。

1. 米関係

(1) 令和6年度4月から6月（3か月平均値）の入出庫残高状況

入庫動向 7,037 トン 前年比 -226 トン

出庫動向 7,959 トン 前年比 -216 トン

残高動向 26,285 トン 前年比 +216 トン

本年4月から6月の動向は、入出庫量が前年比3%程度減、残高がほぼ前年並となっている。

(2) 会員各社の現況等

令和の米騒動問題が発生したように本年7月から9月を経た現状は上記6月までの状況とは全く異なっている印象となっている。具体的には以下のとおり。

- ・例年に比べ、米不足のため令和4年度産・5年度産の米が早々に出庫した。
- ・千葉県産の早場米に対する県内外の卸業者の動きが早く、県内の業者が買い負けすることも多いため、地元の倉庫への保管数量が少なくなっている。
- ・市場に出回る米が少なく市場に出た米はすぐに買い付けられる状況である。このため物流ロットが小さくなり、倉庫保管業務としては、どうしてもデッドスペースが多くなり保管効率が悪くなる。
- ・本年10月から11月にかけてどれだけ倉庫に入ってくるかを注視している。

2. 麦関係

(1) 令和6年度4月から6月（3か月平均値）の入出庫残高状況

入庫動向 95,744 トン 前年比 +20,913 トン

出庫動向 98,278 トン 前年比 +13,064 トン

残高動向 177,402 トン 前年比 -16,253 トン

本年4月から6月の動向は、入庫量が前年比28%増、出庫量が前年比15%増、残高が前年比8.4%減となっている。

(2) 会員各社の現況等

- ・コロナ発生により、令和2年度における小麦の消費量が前年比1割減となった。
- ・令和2年度をボトムとして、令和3年度から5年度にかけて小麦の消費量は徐々に回復傾向にあった。
- ・令和6年度においても回復傾向を受け、前年度より消費量が少し増えている。
- ・現在の状況は、入庫は前年並、出庫は前年比増のため、在庫は減少している印象である。倉庫業の経営面では、在庫減少はマイナス要素であり、在庫減への対応が課題となっている。

3. 飲料関係

(1) 令和6年度4月から6月（3か月平均値）の入出庫残高状況

入庫動向 131,998 トン 前年比 +22,347 トン

出庫動向 125,666 トン 前年比 +17,491 トン

残高動向 74,219 トン 前年比 +14,309 トン

本年4月から6月の動向は、入庫量が前年比20%増、出庫量が前年比16%増、残高が前年比24%増となっている。

(2) 会員各社の現況等

- ・コロナ禍も落ち着いてきたこともあり、令和6年度のメーカー方針は在庫を多めに持つ方針となっていたことに加え、本年6月は例年以上に早く暑くなったため、早期から活発に飲料が動いた。
- ・本年8月における南海トラフ地震臨時情報が発令された際、数か月分の災害備蓄用の保存水が一斉に出庫した。
- ・例年以上の暑さによる飲料出庫増と備蓄用保存水の在庫減により、飲料の保管残高は減少している。当該保管残高減少が課題となっている。

B. 【原材料部会 報告】

本日の原材料部会は5店社7名で開催いたしました。

当部会の加盟店社の主な取り扱い貨物は、「鉄鋼・非鉄金属」及び「木材」となり、各動向をご報告申し上げます。

1. 「鉄鋼・非鉄金属」について

鉄鋼は2店社、主に輸入鉄鋼のパイプ・薄板・線材や国産鉄鋼の形鋼・丸棒・薄板を取り扱っております。

2024年上期について、輸入鉄鋼は入庫が2023年上期に対して10%程度プラスの453,000t、出庫が455,000t、在庫は若干減少となりましたが、概ね見通し通りの水準で推移する結果となっております。一方、国産の形鋼は建設関係の低迷や2024年問題に起因する人員不足もあり減少、国産の丸棒・薄板は自動車関係の低迷で入出庫共に減少しております。特に第2四半期は台風の影響に伴う本船停滞が入庫減少の起因となっております。

2024年下期について、輸入鉄鋼は入出庫共に10~15%程度の減少となる見通しですが、為替変動の影響が多少あるものの、国産材より輸入材の需要が旺盛なことから、増加する期待感もあるとのことでした。

非鉄金属は1店社、鉄が主成分である鋼以外の金属を取り扱っております。2024年上期は第2四半期で入庫15,700t、出庫17,000t、在庫は若干の減少となっております。

下期は鉄鋼市況に同調する動きとなることから、大幅な増減は無いとの見通しですが、製鉄所の大規模改修後の増産に期待が持てる状況でもあります。

2. 「木材」について

木材は2店社、北欧や一部北米からの輸入製材や東南アジアからの輸入合板を取り扱っております。

2024年上期について、輸入製材は国産製材の価格に対抗する為、安価な輸入品を仕入れる動きであり、オントラックに近い出荷形態でコンテナ 40F×310 本/15,200m³/7,700t を取り扱い堅調に推移しました。一方、輸入合板も同様にコンテナ 40F×340 本/14,400m³/7,700t、バルク船 4,800m³/2,500t を取り扱い堅調に推移しております。一部の商社は円安時に仕入れた高コストの商材と 円高時に仕入れた低コストの商材を混合し、仕入れコストを薄めながら販売しており、一時的な円高時に大口契約をしたことから増加したものと推察されます。

2024年下期について、輸入製材は一部商社からは上期同様の取り扱いを2~3年維持する見通しです。一方、輸入合板は国内市場の当用買い中心の姿勢は変わらず、一時的な円高から円安と為替相場が落ち着かないことから様子見姿勢を継続しておりますが、現地工場側の稼働 日数の削減に伴う生産性の低下もあり、原木価格、海上運賃に続く三重苦状態で先行き不透明ですが、各商社の情報を整理すると上期同様の取り扱いとなる見通しであるとの 見解に至っております。総じて、2024年上期の「鉄鋼・非鉄金属」は2024年問題に起因する人員不足や台風の影響に伴う本船停滞、自動車関係の低迷で減少、「木材」は概ね見込み通りの取り扱いとなりました。2024年下期の「鉄鋼・木材」については、現地市況や為替相場及び国産材、輸入材の需給バランスで変動はあるものの大幅な増減はない見通しですが、「非鉄金属」は製鉄所の大規模改修後の増産に期待を持てる状況です。

C. 【機器製品部会及びトランクルーム部会 報告】

本日は5社6名の出席をもちまして意見交換を行ってまいりました。

当部会加盟企業の取扱いとしましては金属製品、電気機械、その他機械、繊維系製品、雑品、トランクルーム及び文章保存になります。第1四半期の前年比較の動向として動きが大きなものとしては金属製品、電気機械、その他製造工業品があげられます。金属製品については原料不足が回復基調に入ったのか前年比を僅かながらに上回る動向を示しております。電気機械の類は前年比 300%では大きく伸長しておりますが、これはここ数年続いたが半導体不足の影響が解消したことの表れととれます。保管残高の前年比数値では製造の回復から保管倉庫への入庫と市場供給のペースのバランスを平準化する過渡期にある事の表れ取れると考えます。全体的な物量変動の要因としてはコロナ禍影響が薄れてきことの反面、ウクライナや中東情勢により国際調達のサプライチェーンが影響を受けている貨物が少なくはないようです。

トランクルームの動向につきましては、本日トランクルーム事業者様の出席がありませんでしたので具体的なお話を聞く事は出来ませんでしたが、こちらも中東、ウクライナ情勢に代表される海外の情勢不安で日本企業撤退などがトランクルーム市場において海外赴任者のトランクリーム利用といった法人利用の減少が影響を及ぼしているものと推察します。文書保存の分野では企業のペーパーレス化の流れに伴い既存書類の保管等で取扱いを伸ばす傾向にあります。

簡単では御座いますが、機器製品部会及びトランクルーム連絡会からの報告となります。

D.【化学品部会 報告】

本日の化学品部会は9店社16名で開催いたしました。

各店社の倉庫状況（総括）

1. 石化樹脂

- ① 大半の倉庫の主要貨物は、汎用樹脂となっている。
- ② 上期は、昨年度より在庫が減少しており、低調に推移している。
倉庫の回転率も低下し、低収益が継続している。
- ③ 石化メーカー各社、業績が低迷しており、特に汎用樹脂は、生産過剰に陥りやすく、それを警戒し、各社は生産調整しており取扱量の減少につながっている。更に、今夏は猛暑のためか、プラントトラブルが多発し、想定外の生産減少となっている。
- ④ 輸出も低調に推移しており、中国向けが激減している。その代わり、東南アジアへの輸出が目立ってきている。中国向けの減少は、中国で汎用樹脂は生産過剰状態にあり国内での安売りによるものと思われ、中国国内で捌ききれなければ、輸出に回され日本への輸入が増大すると思われる。
そうした輸入貨物を倉庫に取込むため、新しい物流導線の構築と、日本の石化メーカーとの関係調整が必要となり、真剣に取り組む必要がある。
- ⑤ 日本の石化メーカーは、生産設備過剰状態にあり、各社で統廃合を検討しているが、進捗が見られない。今後も取扱量は低迷が見込まれ、また石化メーカーの行先も不透明であり、メーカー各社の動向を注視する必要がある。

2. 農薬・肥料

- ① 上期取扱数量は、前年度比で若干の減少で推移している。
- ② 2年前の原材料高騰に伴う大幅な値上げ移行、価格が高止まりしており、需要減が続いている。
- ③ 農家の減少、耕地面積の減少、更に農薬・肥料を減らした農法の開発により、今後は更に減少が続くと思われる。
- ④ 倉庫業者は、空スペースでバラ貨物を取り扱う、危険品倉庫を新設し、新たな貨物を獲得することを検討している。

千葉県倉庫協会のホームページ

<http://www.soukoweb.jp/chiba/index.htm>

① 事務局からのお知らせ

② 会員のページ（毎月の残高報告）